



国道6号牛久・土浦

バイパス建設促進

などを要望

2月25日、池辺勝幸市長を会長とする県南3市（牛久市・つくば市・つくばみらい市）による「牛久市・つくば市・つくばみらい市交通体系整備促進連絡協議会」の代表者は、太田昭宏国土交通大臣へ

国道6号牛久・土浦バイパスの建設促進などについて要望書を提出しました。

池辺市長は、地域の実情や渋滞解消に向けた市の取り組みを説明し、国道6号牛久・土浦バイパスの建設促進を強く訴えました。当日は石井啓一衆議院議員同席のもと、牛久市議会の柳井哲也議長をはじめ、牛久市、つくば市、つくばみらい市の各議員が同行したほか、山岡恒夫茨城県議会議員も



要望書を太田国交大臣へ直接手渡す池辺市長(写真前列左から7人目)



建設促進に向け、太田国交大臣(写真左)へ説明をする池辺市長

オプザバーとして同行。地域全体で国道6号牛久・土浦バイパスの建設促進を強く望んでいることを太田大臣に対し訴えました。

災害時、特別養護老人ホームを

福祉避難所に

2月26日、牛久市役所で市と3つの社会福祉法人が、「災害発生時における福祉避難所の指定並びに設置及び運営に関する協定」を結びました。

この協定は、市内にある特別養護老人ホームを福祉避難所として指定しておき、災害発生時に要援護者（高齢者や障害のある方など）

が避難生活を余儀なくされた際に、特別養護老人ホームを福祉避難所として開設し、運営協力を要請するものです。

今回、市と協定を結んだ3つの社会福祉法人は、博慈園を運営する「博慈会」（高橋博理事長）、牛久さくら園を運営する「若竹会」（竹島徹理事長）、元気館を運営する「慈陽会」（進藤榮一理事長）。同法人は、いずれも市内で特別養護老人ホームを運営していて、各ホームは約60人から80人の災害時要援護者を受け入れることが可能です。



災害発生時における福祉避難所の指定並びに設置及び運営に関する協定締結式

池辺市長(写真中央)と社会福祉法人の理事長や関係者

市では市総合福祉センターを福祉避難所としてすでに指定していて、約300人の要援護者を受け入れ可能としましたが、今回の協定で、災害時に新たな福祉避難所が開設できることになりました。池辺勝幸市長は「防災を見直している中、3つの社会福祉法人には今回の協定を快く受け入れてくださり、感謝しています。地域の安寧を築いていきたい」と話しました。

犯罪や災害から大切ないのちを守ろう！

3月3日、市中央生涯学習センター文化ホールなどで「うしく安全・安心ワールド2013」犯罪や災害から大切ないのちを守るために」が開催されました。

第1部では茨城県警察音楽隊による演奏が行われました。交響絵巻「水戸黄門」では時代劇をイメージした絵巻で、楽しく分かりやすい内容で防犯を呼び掛けました。見事な演奏に、会場からはアンコールと拍手が沸き起こりました。

第2部では「大規模地震に備える、目からウロコのわが家の防災対策」をテーマに、防災システム研究所所長の山村武彦氏が講演。山村氏は「いつも近くににいる人が声を掛け、手を貸し、助け合う、傍観者にならない心が『近助の精神』です。ずっと住みたいまちづくりのためにも、皆さんが『近助の精神』を持つことが必要です」と話しました。

他にも広場では、はしご車搭乗体験や地震体験車、自衛隊防災資機材の展示なども行われ、家族連れなどが楽しみながら、防犯や防災などを学びました。



防災について講演する山村氏



1. 茨城県警察音楽隊による華やかな演奏
2. はしご車搭乗体験は親子に大人気！



駅前でひな祭りイベント

平成22年から市民団体「牛久駅前かつぱつ化実行委員会」が主体となつて始まり、牛久駅前のにぎわいづくりとして奇数月の第1土曜日に開催している「牛久駅前どんどん祭り」が、3月2日に開催されました。

平成25年度から牛久駅東口の再整備工事着工のため、今回をもって祭りはいったん終了となりますが、当日は多くの来場者が訪れました。

今回はひな祭りにちなみ、「おひな様コンテスト」や、新鮮な地元野菜の朝市、コンサート・お笑いライブなど、牛久駅前を元気にするイベントが盛りだくさんで、駅前の雰囲気華やかにしました。



軽やかな歌が会場を盛り上げました

餅つきで地域交流



「ヨイショ！」だんだんとコツがつかめてきたよ

3月2日、つつじが丘区民館で「第5回つつじが丘ふれあいもちつき大会」が開催されました。

今では買ってくるものが多くなつた餅ですが、この日のために、餅米40kg、約160人分が用意され、子どもたちは大人にコツを教わりながら餅つきを体験。自分の手でつきあげた餅は、その場できなこ餅や磯部餅にしておいしくいただきました。参加した子どもたちは「初めて自分できなこ餅を作った。自分たちで苦労してついた出来たてのお餅は、温かくておいしい」とみんな満足した様子でした。

薬物乱用は

ダメぜつたい!

2月21日、牛久小学校の6年生86人を対象に、牛久荃崎ライオンズクラブが「薬物乱用防止教室」を行いました。薬物の恐ろしさについてまとめたDVDを20分間ほど上映した後、同クラブメンバーによる

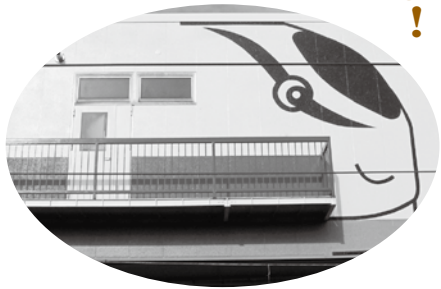


劇で薬物乱用の恐ろしさを伝える牛久荃崎ライオンズクラブのメンバー

薬物についての寸劇を上演。薬物は身近なところにも誘惑があるということを、児童の皆さんに伝えるため、台本からメンバーが自作したものです。劇には2人が売人役、2人が女子高生役として参加。繁華街で、売人がモデルのオーディションをかたり、言葉巧みに女子高生に近づいてくるという設定に、児童たちは引き込まれていきました。上演後には、牛久警察署の久田生活安全課係長から、薬物の恐ろしさについて改めてお話ししていただくなど、子どもたちに「命を大切にしよう」「興味本位でぜつたい薬物に手を出してはいけない」ということを訴えました。最後に、参加者全員で「薬物乱用はダメぜつたい!」と3回唱和しました。

新型特急にいつでも会えるよ!

牛久駅隣接の駅ビル2階壁面に新型特急列車の絵がお目見えしました。3月のダイヤ改正で、常磐線特急列車が新型車両「E657系」に統一されたのに合わせて登場したこの絵。駅自由通路に設置してある「かつばちゃん椅子」からも見ることができ、自由通路下を歩き交う列車と一緒にぜひご覧ください。



牛久駅上りホームや駅自由通路から見える新型車両「E657系」の大きな壁画

寄付のご協力ありがとうございます

常陽銀行から寄付

3月1日、常陽銀行牛久支店から牛久市社会福祉協議会に2万7,000円が寄付されました。この寄付金は、同行の行員が集めたもので、今後地域福祉の推進に使われる予定です。

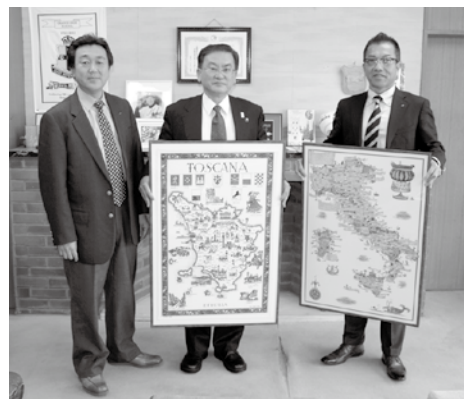


常陽銀行牛久支店からの寄付

イタリアの地図寄贈

3月1日、シャトーカミヤからイタリア全土とトスカーナ地方の地図が寄贈されました。

牛久市ではスローシティのまちづくりを進めていますが、その発祥の地であり、しかもワインで有名なイタリアと牛久市に共通点があるということにちなんで、同社が販促用に保有していたものを寄贈しました。この他にもフィレンツェとトスカーナの写真も併せて寄贈され、地図は市長室に飾られました。



シャトーカミヤから寄贈されたイタリアの地図